

ながれやま 博物館だより

第3号（令和5年4月／年2回発行）

博物館から

● 令和5年度の講座

詳細は広報ながれやま、博物館ホームページ等でご確認のうえ、お申込みください。

寺子屋講座

4/15	くずし字入門—様々な漢字のくずし字—
5/27	歴史街歩き—流鉄の廃線跡と車庫見学—
6/17	考古学入門—考古学って何だろう？—
7 / 8	考古学入門—上新宿貝塚を歩く—
8 / 5	地図で見るおおたかの森のうつりかわり
9/16	考古学入門—野々下貝塚を歩く—
10/15	庚申塔がおもしろい
10/21	歴史街歩き—平和台・鱈ヶ崎の景観と文化財—
11/18	歴史街歩き—利根運河・西深井地区—
12/7	みりん学講座—みりんでおせち—
1/20	くずし字入門—地名から学ぶくずし字—
2/17	考古学入門—貝塚について考えてみよう—
3/16	考古学入門—埴輪について学ぼう—

※日程・内容は変更になる場合があります。

子ども教室

5 / 5	勾玉を作ろう！
5 / 6	草花あそびをしてみよう！
7/15	ニイニイゼミの羽化を観察しよう！
7/21	貝がら工作
8 / 5	みりんを使った料理教室
8/25	土器を洗ってみよう！
9/18	甲冑を着てみよう！
10月中旬	煎茶教室
11/4	古代の鏡を作ってみよう！
12/2	木の実工作
12/16	昔の印刷機で年賀状を作ろう！
3月中旬	茶道教室

古文書講座

11月	前期
2月	後期

● 国登録有形文化財「秋元家住宅土蔵」の保存修復工事

市が所有する秋元家住宅土蔵の保存修復工事が始まりました。文化財の保存や活用を進めるため、ふるさと納税による寄付を受け付けています。皆さんの力で地域の文化財を守っていきませんか？ 詳しくは市役所ふるさと納税のページをご覧ください。

➡<http://www.city.nagareyama.chiba.jp/life/1001780/1001785/1037429.html>



展示会情報

● 企画展「近世流山の13枚」

★会期：令和5年9月30日(土)

～12月3日(日)

現代の流山のルーツは江戸時代にあり！？

江戸川、坂川、みりん、小林一茶、新選組……現代の流山を語るうえで欠かせないキーワードは江戸時代にルーツを持ちます。言い換えれば、現代の流山のルーツは江戸時代にあり、と言えるかもしれません。

そこで、本企画展では、流山にとって特徴的な出来事や江戸時代を理解するうえで重要な要素から13のテーマを取り上げ、それらを象徴する絵図・古文書13点を中心に据え、関連資料と共に展示します。

(上條静香)

会期中休館日 月曜日 (10月9日は開館)、10月10日(火)、10月31日(火)、11月30日(木)

会場 第二展示室 観覧料 無料

● 巡回展「流山新市街地地区の遺跡展」

★会期：令和5年7月15日(土)～9月3日(日)

つくばエクスプレス流山おおたかの森駅周辺(流山新市街地地区)の開発に先だって、公益財団法人千葉県教育振興財団によって発掘調査が行われました。調査期間は平成8年度から平成30年度までの20数年にわたります。その調査成果をもとに、旧石器時代から中・近世にいたるまでの遺物を展示し、流山新市街地地区の古人の足跡をたどります。

流山新市街地地区では古墳時代中頃の集落が見つかり、そこから石製模造品が多く出土しました。石製模造品とは、^{じゃもんがん}蛇紋岩や^{かつせき}滑石といった比較的柔らかな石材を用いて、勾玉や鏡、剣などの形を模して製作したもので、古墳や祭祀で使用されていました。石製模造品の工房跡も数軒見つかっています。この調査から分かった製作工程についても展示します。(千葉県教育振興財団 當眞嗣史)

会期中休館日 月曜日 (7月17日は開館)、7月18日(火) 会場 第二展示室 観覧料 無料



中村用水堰絵図



ぼくしょ
墨書土器 (古墳時代)



じゅうけんもんきょう
重圈文鏡
(古墳時代の竪穴建物跡から出土)

博物館から

● 常設展示「変わり行く風景」リニューアル

昨年12月、常設展示の「変わり行く風景」のコーナーをリニューアルしました。1町2村の合併によって誕生した江戸川町が翌昭和27年に流山町へと改称した頃から令和の現在に至るまで、この70年の流山の歴史を学ぶことができるコーナーです。リニューアル後の特徴は3つあります。ぜひ博物館にてご覧ください。



- ①流山での主要な出来事を、写真と一緒にテレビモニターで見ることができます。
- ②新流山橋の開通、流山インターチェンジの開設、常磐新線（つくばエクスプレス）の名称募集に関係する資料を展示しました。近年の変化が著しいトピックの原点を見ることができます。
- ③「定点観測」の写真を展示しました。博物館では、以前の市内の風景が今ではどのようになっているのかを記録し、そして今の風景を将来に向けて記録するため、全部で200ほどの地点で風景の撮影をしています。現在はつくばエクスプレス沿線の6か所の写真を紹介しています。つくばエクスプレスが開通した頃と、最近の様子とを見比べてみてください。

（伊藤智比古）

市史編さん担当から

● 『恩田家文書目録(2)』を刊行

令和5年3月、『恩田家文書目録(2)』が刊行されました。これは当館に寄託されている古文書の目録であり、令和3年3月の『恩田家文書目録(1)』に次ぐ2冊目の刊行です。

「古文書の目録」と言われてもピンとこない方が大半だと思いますので、ここで簡単にご説明しておきましょう。「古文書の目録」とは、どんな古文書があるのか一覧できる、いわば「古文書のリスト」です。目録を見ると、古文書のタイトル、作成年、作成者や宛先がずらっと並んでいます。ですが、実はただ並んでいるだけではなく、内容ごとに分類され、年代順に並べられています。この目録を見て古文書の閲覧希望者は自分の目当ての古文書にアタリをつけます。ですので目録の中身はとても重要です。誤った情報や漏れがあると、閲覧希望者が目当ての古文書にたどり着けない可能性が高くなるからです。そのため、当館では専門職員が日々古文書の整理を続けています。この結果、古文書目録が刊行され、皆様にご覧いただけるようになっていきます。

どうでしょうか？ 古文書目録に少なからず興味が出てきたのでは？ 『恩田家文書目録』は博物館で有償頒布しているほか、市内図書館でも閲覧いただけます。皆様が古文書に興味を持つ一歩になれば幸いです。

（上條静香）

● 市内に残るおびしゃ行事

みなさんはおびしゃ行事を知っていますか？ その年の豊作や無病息災などを祈るこの行事は、江戸時代から続くものです。市内では、市指定無形民俗文化財の鱈ヶ崎のおびしゃ行事や三輪野山のヂンガラ餅行事が有名ですが、それ以外の地区でもおびしゃ行事が行われています。今回は現在も行われているおびしゃ行事の様子を紹介します。

おびしゃ行事の特徴として、鬼の的に向かって矢を放つ歩射ぶしゃがあります。鱈ヶ崎で行われる、七福神に扮した人たちによる歩射がよく知られていますが、西深井・流山(宿・根郷)・市野谷でも鬼の的に矢を放つ儀式が行われています。地区によって違いはありますが、鬼の的に目を射抜くと、農作物が豊作になり、災いにもあわないと言われています。

もう一つの特徴は、聖護院大根やネギ、ゴボウなどを使って鶴と亀のお飾りを作ることです。おめでたい鶴と亀を飾ることにより、その年の無病息災を願うものと考えられています。鱈ヶ崎・西深井・市野谷・前ヶ崎・向小金で現在も作られていますが、大根やゴボウなどで鶴や亀を表すのにはテクニックが必要で、技術の継承が難しくなっているようです。

向小金・前ヶ崎では、女性だけが集まる「女びしゃ」と呼ばれる行事があります。この行事では、子どもの無病息災を願うものとして小豆ご飯を用意することが特徴的です。また、女性が家事から解放されて息抜きができる貴重な場でもあったようです。



鶴・亀のお飾りと供え物

これらの行事は当番や宿やどと呼ばれる人たちが準備や運営を担当し、1年ごとに次の当番に引き継ぎます。時代が大きく変わり、古くからのしきたりや技術の継承など、難しい問題も抱えていながらも、おびしゃ行事は今も地域の皆さんの力によって守り続けられています。

(北澤 滋・染谷実紀)



鱈ヶ崎のおびしゃ行事

ながれやま博物館だより 第3号

発行日 令和5年4月1日

編集・発行 流山市立博物館

〒270-0176 流山市加一丁目 1225-6

お問い合わせ ☎04-7159-3434

ホームページ <https://www.city.nagareyama.chiba.jp/life/1001780/1001785/index.html>



ホームページ



Facebook



Twitter



Instagram